

手に勇気を出すことの大切さを知ってもらえるように話を展開させていけばいいわけだ。

## まずはテーマを作る——その2

### \*どのよつにテーマを選ぶか

テーマを作ろうという話をした後なら、当然どんなテーマにすればいいのか疑問に思うことだろう。だが、難しく考えることはない。ライトノベルを書く時には、エンタメを意識して楽しそうなものを選んでみたい。

一般文芸や純文学であれば、『人生とは何か』など哲学的なことをテーマにすることもあるだろうし、人生を長く生きた人が考えたほうが重みや深みが増すようなテーマも存在している。『人生をいかに生きるか』、『人間の愚かしさ』などがテーマになっていてもいいかもしれない。

しかし、ライトノベルで同じようなテーマを持ち出してしまつては堅苦しくなつてしまい、エンタメ小説としての役割を果たすことができなくなつてしまつてしまう。何より中高生が自発的に知りたい内容ではなくなつてしまつてしまう。

あなたは中高生の頃に友達と『人生をいかに生きるか』、『人間の愚かしさ』について語つたことがあるだろうか。そのような経験を持つている人は少ないのではないかと思われる。

深みのある文学的なテーマなのだが、ライトノベルの読者が求めているものとはやや異なつてくる。

中高生が興味を持つような、もう少しライトなテーマを選びたいところだ。

例えば「友情」「恋愛」などのテーマはいいかもしれない。堅苦しくなく、中高生が共感できそうなものだからだ。友達の悩みや恋愛の悩みなどを抱いた経験がある読者や、今まさに友人や恋人が欲しいと思つている読者もいるかもしれない。

ただ、そういった中高生の読者の悩みと、それより少し大人になつた作者の悩みは、少しだけ違つてくる。そのため、中高生ならではの悩みや興味を発掘していきたいところである。

**ライトノベルを読むだけでなく、街中で聞く会話などを参考にして、彼らの慣れ親しんでいるものを探してみる**といいかもしれない。その中からテーマに関するものが浮かび上がつてくるだろう。

とはいえ、「友情」「恋愛」というだけでは漠然とし過ぎている。思春期の悩みというイメージが強いのは確かだが、どの世代でも感じることができるとも言える。そこで、時代性を意識して、漠然としたテーマをもう少し限定できるといいかもしれない。

単に「友情」とするのではなく、どんな友情なのかを考えるわけだ。現代らしくスクールカーストを絡めてもいいだろうし、親との仲が悪い学生同士というのもあるだろうし、あるいは友情の対象を人間以外の生き物とするのもいいかもしれない。そのように、テーマを詳細にして具体性を含ませると、自分が書くべきものが見えやすくなる。

テーマが必要になるのは現代を舞台にした作品だけではない。ファンタジーなどの異世界や遠い未来の地球を舞台にした物語など、どのような作品でもテーマは求められることになる。

一度書き始めて失敗したテーマは、別の環境であれば有効に見せることができることもある。いろいろなシチュエーションを使い、さまざまなテーマを用いて試行錯誤してみてほしい。